

大晦日 ～除夜の鐘～

12月29日

お餅つき

12月31日から元旦にかけて、「除夜の鐘」を撞いております。総代・世話人さん達が見守る中、今年もたくさんの方々が鐘を撞きにこられました。除夜の鐘が鳴り始めると一年の終わりと新しい一年の始まりを実感できるような気がします。鐘を撞いた後は、忍野の厳しい寒さに負けず、風邪をひかないように、たき火の前で「おすいとん」と「甘酒」を食べていただきました。さまざまな世代の方が一つの火を囲んで暖まる様子は、どこか家庭的で和やかな雰囲気につつまれていました。



熱々のお餅を形取り、たくさんのお供え餅を作ります



「ヨイショッー」というかけ声で力強くついていきます



除夜の鐘名物「たき火」
寒い中來られた方々に暖まっていた
きたいと、総代・世話人さん達
お手伝いの方が火の番をしてくれ
ています。



ライトアップされた鐘楼門
東円寺の鐘楼門は幕末に造られ、そ
の頃は茅葺き屋根でした。今の屋根
に替えられたのは大正時代です。梵
鐘は三代目で昭和になって寄付して
いただいた物です。

東円寺では、毎年12月29日にお餅つきを行います。一般的には29日にお餅をつくことを「二重苦」や「苦」に繋がると言われて嫌われますが、お寺においては、檀家の皆様の今年一年の「苦」をつききり、新しい一年が「福」で迎えられるように、祈りを込めて29日に行っております。ついたお餅は仏様の御供えや、お正月のご挨拶に來られる方々へお雑煮にしてお出ししております。昔ながらの杵と臼でつくお餅はやわらかくて、とても美味しいです。